



発行・カトリック水巻教会

編集・広報委員会

遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3

〒807-0025

TEL 093(201)0680 FAX(201)7354

第299号

聖霊の働きを感じる時

広報・岩本

1月中旬に、福岡県南部の教会の神父から相談が寄せられました。用件は教会に来るフィリピン人女性の実習生の訴えでした。

早速、北九州地区のNGOのメンバーと会いに行きました。ミサの後、その神父に挨拶をすると、本当に良く来てくれたと大変喜んでいただき、フィリピン人のEさんを紹介されました。

さっそく信徒会館の部屋で話を聞きました。彼女は、自分が働いた2年間の残業代がごまかされていると思うので、見て欲しいという話でした。

それ以後、こちらのメンバーが何度も出かけて行きEさんの話を聞きました。彼女の要望は、できれば正しい計算で残業代を払って欲しいが、できないときはこれから先、自分のように賃金をごまかされる人が出ないようにして欲しいというものでした。

最初に行ったとき、12年前にフィリピン人女性との結婚相談を受けた夫婦との再会があり、この後は奥さんが難しい話の通訳を務めてくれました。

Eさんの帰国まで時間が無いので解決が難しいと思われたのですが、NGOのメンバーは、困っている人を見過ごすことはできないという結論になり、交渉をすることにしました。一ヶ月に渡る交渉の結果、話がまとまり残業代が支払われることになりました。

この結果を神父へ報告したところ、神父は「難しいと思っていたのに、こんな結果になるとは神に感謝です。神様万歳」と大喜びされました。神父も、Eさんが自分のことではなく、自分の後に来る人のことも考えていることにとっても共鳴していたのです。

今回のことでは、沢山の人が動きました。最初に悩みを聞いて何とかしたいと動いてくれた神父さん。私たちの間に入って通訳や電話連絡を積極的にしてくれた夫婦。帰国日が近く交渉期間が短いけれど困った人を見捨てなかったNGOの人たち。

自分だけの考えや行動では解決しないものが、多くの人たちの行動で次々と新たな展開をしていく、今回の出来事の中に神の導きと聖霊の働きを感じずにはいられませんでした。

彼女は聖木曜日に3年間の労働を終えて帰国しました。

子ども達のページ	2面
教会学校のページ	3面
委員会報告	4面
聖書への案内・復活祭を使った	5面
ボランティア参加報告	6・7面
おしらせ・今月の聖人	8面



子どもたちへのページ

せい はなし だい かい
聖パウロの話 第7回

この後、パウロは一度シリアのアンティ
オキアに戻りますが、もっと多くの人に
キリストの福音を伝えるために旅に出
ます。

ところが、このパウロの旅はとてもひ
どいものでした。エフェソという町では、
パウロを追い出そうとする人たちに捕
まって何年間も牢屋に入れられました。
このとき、パウロは今までにいった町の
人々へたくさんの手紙を書きました。
この手紙が、新約聖書にあるパウロの
手紙の一部です。

この手紙を読むとパウロがどれだけみ
んなのことを心配しているのかよく分
かりますし、この旅がどれだけ大変なも
のがわかります。

旅の途中では、強盗に会ったり病氣
になったりしましたが、たくさんの人の
助けもありました。1つの町から次の
町まで歩くのは何日もかかります。パ
ウロは馬にも乗らず歩いたのです。パウ
ロは神様の導きと聖霊の助けによっ
て旅を続けました。

パウロが歩いてから1900年以上過
ぎましたが、使徒言行録やパウロの手紙
に書いてある町は今も残っています。し
かし土の中に埋まってしまった町もた
くさんありますので、キリスト教を信
じる人が多い国の大学などが、パウロ
が歩いた町などを調べたり掘り出した
りしています。

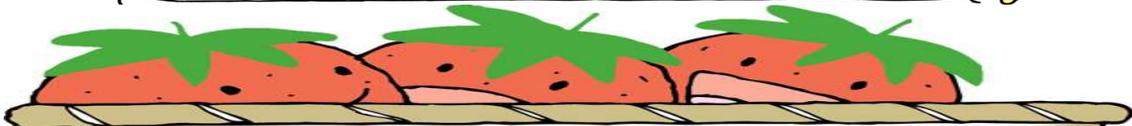
コロサイという町はまだ土の中に入
って掘り出されていません。そこに
行くと、コロサイの町があるという看板
がかけられている小さな山があります。

ギリシャへ行くと、パウロが訪れた
場所には必ず使徒言行録を書いた板
がかけられています。

パウロが歩いた道はとても長い距離
でした。信徒会館の会議室にはパウロの
旅の大きな地図がありますから一度ゆ
っくり見て下さい。聖書に書いてある
地名は本当にあったところです。パウロ
の旅については、たくさんの写真が付い
た本があります。その本を読むことも良
いでしょう。



教会学校のページ



4月8日 初聖体式

3人の子ども達が、初聖体に向けての勉強を終えて、初聖体式を迎えました。

5年生 小倉大暉くん

3年生 平田綾香さん

3年生 野田明日美さん

3人のために、お祈りを願います。

4月22日 始業式

それぞれのクラスで、リーダーとの顔合わせと勉強をしました。

3年生クラス

リーダー：成松令子さん・野田真由美さん

初聖体式のときに頂いた聖書を使って、「聖書と典礼」で当日読まれた聖書の箇所を、自分の聖書で引く練習をしました。

4・5年生クラス

リーダー：上川直子さん・平田真澄さん・柴田沙良さん

自己紹介をして、アベ・マリアの祈りを勉強しました。

6年生クラス

リーダー：坂本初美さん・池松律子さん・川原五月さん

当日の「聖書と典礼」で読まれた、ルカによる福音書の勉強をしました。



委員会等報告

2012年4月分

4月度小教区委員会

4月15日

1. 前委員会の議事録確認

①下水道工事について

見積もり価格は約180万円。教会は約115万円を負担。工事期間は4月28日～5月9日の予定。日曜日のトイレは使える。一緒に幼稚園後ろのブロック塀、犬ばしりの工事を行う。

②総会の内容確認について

5月12日 印刷・製本

5月13日 資料配布(聖堂に置いておく)

2. 先月の行事報告(抜粋で記述)

- ・3月18・25日、4月1日 地区集会
- ・4月8日(日) 復活の主日
- ・4月15日(日) 信徒協聖書講座

3. 議題

①地区集会で出た意見・内容の確認

- ・身障者用トイレに荷物置きがほしい。
→何らかの方法を考える。
- ・街頭募金の実行委員や担当者を決めてほしい。
→昨年度は委員会で話し合っていない方向に決めたので、今年度も話し合っていない方向性を決めるが、委員会でしないときめたときは、実行委員会や担当者を委員会としては作らない。
- ・ホームレス支援の担当者を早めに知らせてほしい。
→日にちは年間行事で知らせている。現在窓口は馬込さんがしている。
- ・大きな行事があるときは、毎月小教区

委員会を開いてほしい。

- ・園バス駐車場にナメクジが多数いる。草を刈ってほしい。
- ・バスの本数が減ったので、帰りに送ってもらえるようなシステムがあれば。
- ・聖書朗読は典礼委員会でももらえないか。
→典礼はみんなが参加することが大切なので、今まで通りにしてほしい。人がいない、階段がきつい等あれば、典礼委員会や司会に事前に言ってもらえれば、対応する。
- ・お花の担当を地区もちまわりでもいいのでは。
- ・維持費納入額を増やしては。
→現状では難しい。世帯の独立した子に呼びかけていく。
- ・聖堂の周りにさびやひびがある。見積もりを早めにとった方がいいのでは。
- ・いろいろな営繕の事に詳しい人を集めて、営繕検討会を立ち上げてはどうか。
- ・小教区祭への参加を幼稚園や近所の人に呼びかけては。
- ・台所の大掃除をしてほしい。

※地区から出た意見・内容は、今後委員会で検討していく。

4. これからの活動

4月22日(日) 納骨堂利用者集会

※お盆の時期の責任者を募る予定

5月20日(日) 水巻信徒総会

パウロがエフェソの牢獄にいたときに書かれたと言われていましたが、90年頃にパウロの考えを継いだ人によって書かれたものだということになっています。

この手紙のテーマは、栄光の教会と神の永遠の姿が書いてあります。

この手紙の底辺にはパウロがこのエフェソの地で受けた困難と苦しみがあるからこそ、このような手紙になったと考えられます。

パウロの苦難については少しだけ書いてありますが(3章13節)本当は大変なものでした。

パウロは61年から63年に書けて2年間も海のそばの高台にある牢獄に幽閉されましたし、アルテミスの神殿の問題で騒動が起こりエフェソからは追い出されました。(使徒19章21節～) そのため、この旅の終りにはエフェソを訪ねることをあきらめ、近くミレトスに長老たちを呼んで最後の別れをしています。(使徒20章17節～)

5章6節からの内容は、現代の私たちにも直ぐに通用する教訓的な内容です。18節の「酒に酔いしれてはなりません。それは身を持ち崩すもとです」は、耳に痛い箇所です。



復活祭を使った布教は？

信者でない方々がクリスマスだけは教会に来ることがあり、教会に来なくても多くの日本人が家庭で「何かを祝っている」ことに間違いはありません。

ここで我々キリスト信徒は、これらはただの「雰囲気を楽しむに来る」ことだ！「商戦」の煽りだ！とこき下ろすのでなく、この雰囲気を利用すれば、あと一歩でイエス・キリストの誕生の意味を知らせ、福音を伝え得ること、この工夫はできないのか、と思うのですが…。司教団からも、日本社会への何らかの発信はないものでしょうか。

さて、今述べたとおり、クリスマスによる布教はあと一歩なのですが、さらには復活祭を日本人に伝えること、復活を使った福音宣教はできないのでしょうか？「できないのでしょうか」と言う以前に、誰も何も考えてないのでしょうか。

クリスマスとは、幼子イエスを見て感じる、イエスの今後における宣教、受難、復活、昇天、聖霊降臨、そして再臨を内包している神秘の印象です。それに比べて、復活は、苦難と死に打ち勝ち、イエスの福音が真実であることを証しする、要するに喜びの爆発です。

南米のキリスト教国では、四旬節に入る前ですら、カーニバルとしてお祭り騒ぎをします。南米では復活祭もさぞ大きく祝っていることでしょう。米国社会でも、復活節の賑わいもあります。日本においても、表面だけでは駄目だと決めつけず、復活の喜びを社会に伝えることはできないのでしょうか。(広報部)



仙台サポートセンター管轄・米川（南三陸）ベース

ボランティア参加 報告

三谷 尚

東日本大震災から1年過ぎたものの、当教会の掲示物や、カトリック新聞によれば、まだまだ人手が必要とあり、春季を利用し、カリタスジャパン・教区支援のボランティアに行くこととしました。

当初、福岡教区が立ち上げた大槌ベースの参加を考えたのですが、私にとって仕事上、東京起点の行動でして、まず新幹線で新花巻まで行くという難点があります。一方、仙台起点なら、私は昔、仙台に居り、前後に多くの知己にも会え、私が活動した仙台教区カテドラル教会に派遣のサポートセンター設置されており、こちらの管轄地を選びました。そのサポートセンターは、現在、宮城県北部の米川（南三陸）ベース、岩手県中部の釜石ベースを管轄しているのですが、適度に遠く適度に近い、米川を選ぶことにしました。（各ベースはカトリック新聞3月11日号にて大きく紹介）結局、このベースで、3月17日から2泊3日で働かせて頂きました。

さて、（私は昔、仙台に居り、半ば知っているからこそ不思議に思ったのですが）「米川」とは海からずいぶん離れた内陸部であり、どうしてここに、と思いました。福岡から出発する時ですら、「南三陸には行けないのだろう。そこで住めなくなった方々が、内陸の米川に仮設住宅を作っている。ここでお世話をするのか。」と勝手な解釈をしていたのですが、真実はこうでした。「（教区の）ベース」というものは、そこに教会か修道会がないと成り立たないということです。たとえば、ボランティア参加者は熱心でもそのベースの維持には責任がないことは明らかです。（そして、行って解りましたが）ベースにはベース長が置かれ、ボランティア長期滞在者の立派な働きもあるが、やはり常駐人員としては近隣の教会・修道会に頼らざるを得ない。だから教会等の近くに作る。そして沿岸までは多少遠くとも、毎日、車で移動することになる様です。

米川に教会があることは、私も学生時代、訪問し知っていましたが、日本の北方のキリシタン弾圧の歴史があり、それを示す展示があります。そこにオタワ女子修道会が隣接している様です。ボランティアのための日々の食事は、米川教会オタワ修道会のシスターが責任者として作っておられ、私が行った春休みは、10人、20人、30人と、参加者がうなぎのほりで、その大変さに敬服。なお、私と重なって、久留米聖マリア学院大学学生8名、引率3名も参加され、今年度から福岡教区に司牧実習に来られるはずの神学生も一緒でした。

その米川ベースを起点に、私は、南三陸・志津川の元漁港、今、ほとんど岸壁と仮設作業場しかない場所で、ワカメの雌株（次世代の種付け、あるいは化粧品の特殊素材になる）の裁断、食用ワカメの塩水洗浄や、漁で獲りたてで「絡まっている」状況を「ほぐす」手作業、物資援助として国内から頂いた漁網にて寸法が合わないので、切断する作業、などを手伝い

ました。(実に、この原稿執筆の4月22日号のカトリック新聞、第2面に私がお手伝いした漁網支援の場所が出ています！)

残念ながら、私が是非、手伝うことを期待した「お茶っこ」(仮設住宅の方々との対談・相談)、および、がれき処理は、偶然、私・私の行った日には回ってこなかったのですが。

私が数日、車で通りかかった、あまりに広大な空き地、一見平凡に見えた土地・・・、福岡に帰ってからやっと分かったのですが、あれは、かつては賑やかな漁港であり、繁華な商店街もあった、そして人々の営みのあった南三陸・志津川の町だったのです。そこで所々に、5m以上のがれきが積み上げられた姿は、虚無の空間の様でした。早く復興を期待したいものです。そのために私たちに何ができるのか？効率を求めるのではなく、まさか自らの「功」を狙うのでもなく、じっくり考えたいものですが。

なお、私が滞在した数日前には、私の勤務の福岡教育大学の学生(これは当大学の一人の熱心な教員がボランティアサークルを立ち上げたお陰ですが)が当地で活動しており、5月上旬には私の息子が行くこととなっています。私自身、次は釜石か大槌に行きたいです。



米川ベース参加者：久留米聖マリア学院大学の先生・学生さんたち



米川(南三陸)ベース 夕食の風景
この数日久留米の看護大、上智大が多かった



南三陸・志津川漁港(ワカメの裁断洗淨作業を)：瓦礫の山が見える

5月のみしらせ

★特別献金★

4月6日 聖地献金	24,240円
4月15日 カテドラル献金	53,900円
四旬節愛の献金	52,300円
東日本大震災募金	82,470円

ご協力ありがとうございました。

★信徒総会★

日時：5月20日(日) ミサ後

場所：水巻教会 聖堂

信徒総会は、今年度の教会の方針等話し合うものです。是非、信徒の皆様の参加をお願いします。

★ロザリオの祈り★

5月は聖母の月です。5月の日曜日毎週、ミサ前9:10よりロザリオ一連を皆で唱えます。ご参加下さい。

人-ひと

【帰天】安らかに！

3月24日

田口 幸夫さん(梅の木地区)

【転入】ようこそ！水巻へ

福島 美紀さん

新田原教会より高須地区へ



今月の聖人 18日 聖ヨハネ1世教皇殉教者 在位523年-526年

ヨハネ教皇は、イタリアのトスカナに生まれ、聖職者の中では若いときからその雄弁さと模範的生活で知られていた。523年に教皇に選ばれる。当時イタリアは、異端を唱えたアリウス派を擁護する東ゴート族のテオドリックの支配下にあったが、東ローマ帝国のユスチノ1世は、アリウス派をカトリック教会と併合する勅令を出していた。テオドリックは勅令を取り消させるために、教皇ヨハネ1世を団長とし、無理やりに東ローマに折衝に行かせた。(ヨハネは東ローマ帝国を訪れた最初の教皇となる。)その結果、アリウス派の教会は自由になるが、テオドリックはヨハネを逮捕した。数日後、ヨハネは獄死した。